# 少年たちがミイラ状態で見つかった

回目の慰霊祭が行 ちが参加して第1

われました。

子生徒による学徒隊)の最期の地が摩文 範学徒隊(教師をめざす13~18歳の男 ひめゆりの塔慰霊祭の2日後、男子師

直

### が書かれたもので 塔の名付けも石碑

### が「ひめゆりの塔」 植えました。これ 刈り、縁には石を積み上げて、近くの野 ものがあるだけでした。焼け残った髪の 遂げられたことを知らされ現場に駆け付 井原第三外科壕(糸満市井原)で最期を 山から探してきたテッポウユリの球根を 校生、収骨隊が協力して、壕周辺の草を 翁長助静分校長を先頭に、先生方や高 毛の束やクシ、万年筆なども拾いました。 尽くされ、黒い岩陰を触ると遺骨らしい けました。すでに米軍によって遺骨は焼き ひめゆりの塔」建立 3月中旬頃、ひめゆり学徒隊の友人が

収集にはげみ、「魂魄の塔」「ひめゆりの塔」

健児の塔」を建立し慰霊できたことは、

今を生きる人たちに伝えたいこと

私の人生の心の財産になっています。



建てられました。

は「ひめゆりの塔」

建立されたばかりのひめゆりの塔(那覇市歴史博物館提供)

だっ

戦争では、見慣れた日常の風景が戦場になります。 .度とこのような景色が繰り広げられないよう、私た

-人が戦争と平和について考えてみません

の弱い人間が犠牲になります。 時の権力者たちの命令で始められ、立場 の貧困の中で遺骨収集したことなどを 語ってきました。 教育に関わってきました。機会のあるごと 人切な命を奪う戦争は絶対に許せません。 に、戦跡地を案内し戦時中の様子や戦後 戦争には正義の戦などありません。当 死んでいった方たちはどんなに悔しかった この世に生を受けるのは一度だけ、その 私は戦後、小学校教師となり、民主主義

っています。 と、こんな戦が起こりませんようにと願 いる人間です。「命どう宝」。絶対に、二度 る人間、止めることができるのも生きて ことでしょう。戦争を起こすのは生きてい

れますよう願っています。 戦後77年目の慰霊の日を迎えるにあた し、基地のない平和なくらしが続けら 国の沖縄に対する不平等な現状を見

か

### 学友たちのお骨を拾い

35,000柱が合祀される魂魄の塔 上原文広所蔵(『大琉球写真帖』より) 那覇市歴史博物館提供

がわかりました。 仁岳西方の断崖絶壁下の壕であること

壕の中はひんやりしていて、ミイラ状態

建立されまし した。その後、 せずに帰りま その日は収骨 んなで合掌し、 をひとつひとつ なれず、頭蓋骨 崩すつもりには 丁寧に並べ、み 健児の塔」が



ったらきっと見分けることができる状態の 遺骨もありました。ミイラ状態の遺体を て抱き合っている2人の遺骨や、肉親だ 遺体も何人かいました。毛布にくるまつ

少年たちが最期を迎えた壕。中央にあるのは多数の骨。 (那覇市歴史博物館提供)

## りながらも、真和志村民が協力して遺骨 終戦直後、自分たちも苦しい生活にあ



破壊された海洋会館前での米軍(現在の松山2丁目付近)



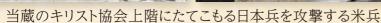
那覇市歴史博物館提供



泊小学校に突入する海兵隊員











松山町の那覇地方裁判所(現在の松山公園)門前で戦う米兵





奥武山を通り前線に向かう米第6海兵師団の兵士たち